

# 日赤ニュース

No. 45  
2012年

発行日：平成24年2月  
発行責任者：河井繁  
編集・発行：伊勢赤十字病院 広報委員会  
伊勢市船江1丁目471番2  
☎ 0596-28-2171(代表)  
<http://www.ise.jrc.or.jp>

## 理念

人道に基づき赤十字病院として  
質の高い医療を提供します

## 基本方針

1. 人道を掲げる赤十字の原則に基づき、人々の健康と生命の尊厳を守ります
2. 人権を尊重します
3. 個人情報保護に万全を尽くします
4. 医療水準の向上に努め、最善の医療を提供します
5. 地域医療機関との連携により、個人に合った適切な医療を提供します
6. 救急医療の充実に努めます
7. 災害時の医療救援や国際救援に貢献します
8. 健全な運営に努め、末永く地域社会に貢献します

## 年頭ご挨拶



平成24年の年頭に当たり謹んでご挨拶申し上げます。

平成21年10月に建築を始めました新病院は予定通り平成23年8月に完成し、機器の搬入も順調に進み、平成23年12月26日に入院患者さんの移送が終了し、病院機能は完全に移転致しました。工事中及び移転に際し近隣の皆様をはじめ、各方面に御迷惑をお掛け致しましたこと、厚くお詫び申し上げます。

当院は1904年に宇治山田町・古市に創建され、1926年に御薗村・高向に移転し、約108年間に亘り山田赤十字病院として、地域の皆様に親しまれて参りました。今回、伊勢市・船江に移転するに当たり、「伊勢赤十字病院」と改称させて頂くこと致しました。医療機能の高度化に伴い、より広域からの患者さんにも対応することが求められるため、知名度の高い「伊勢」を冠すことと致しましたので、御理解の程宜しくお願い申し上げます。

さて新病院ですが、延べ床面積がこれまでの約1.5倍と大変広くなりましたが、かなりゆとりがございます。また個室を約200室としましたので、個室のご希望にはほぼお応え出来ると考えています。

新病院は免震構造で、一階の床高を高くしましたので、先の東日本大震災程度の地震、津波にも耐え得ると考えています。屋上にヘリポートを設けましたので、災害拠点病院として充分な機能を備えています。日常的には、救急部門をはじめ全診療部門の充実を図り、当地域で初めて緩和ケア病棟も設けましたので、地域完結型医療の発展に更に寄与していくものと確信しています。

エントランスホールに接する患者支援センターは、入退院の説明をはじめ、患者さんの各種の相談に応じたり、地域の医療機関の方々への対応を行うと共に、一般向けの図書室としてご利用頂きたいと考えています。更に多目的ホールは、伝統ある病院名の「やまだ」と名付け、講演会や各種イベントに広くご利用頂きたいと願っています。

これからも長く地域の方々に親しまれ、愛される病院であり続けられる様、職員一同努力致しますので今後とも御指導の程、宜しくお願い申し上げます。

院長 村林 純二

# 放射線科が 「放射線診断科」と「放射線治療科」に分かれます

第一放射線科部長 小野 元嗣

新病院の開設にあたって当院では、目標としてきた地域完結型医療の更なる進化・充実を目指して診療機能の拡充が行われました。救急体制の充実、すべての急性期医療への対応が可能な最新の高度医療機器の導入、がん診療連携拠点病院に指定されている点も踏まえたがん診療の強化が図られています。その具体的な内容の一つとして、放射線部門に力を入れた整備が行われました。これに合わせ、診療科としての名称も業務内容に応じた呼称に変更し、従来の「放射線科」から、「放射線診断科」と「放射線治療科」の2つの標榜科に分けることと致しました。

放射線診断科では、核医学診療の充実が図られ、最近のがん診療には欠くことのできない画像検査であるPET検査を新たに導入し、最新のPET-CT装置1台が設置されました。また、通常のRI検査を行う装置についてもCTを組み合わせたより高性能なSPECT-CT装置1台が新設されています。一般撮影の領域では、従来のマンモグラフィー装置2台に加え、乳がんの診断に威力を発揮するマンモトーム1台も新設されました。更に、マルチ・ディテクターCTは1台増設（合計3台）、MRIは最新の高磁場装置（3T型）1台と、全国で3例目となる術中MRIシステム（1.5T型）を含む合計3台（2台増設）、血管撮影装置も1台増設されて合計3台となり、救急診療への対応も強化されました。エコー検査に関しては、旧病院では腹部領域などは放射線部門で行われていましたが、新病院ではこれも含めてすべて臨床検査部の生理検査部門に統合されています。

放射線治療科では、放射線治療装置としてVarian社製Clinac iXとTrilogyの2台が導入され、一般的な通常の放射線治療からハイテクを駆使した特殊な治療まで対応が可能な装備を保有しました。これに伴って、通常の放射線治療においても、腫瘍の形状に応じた照射野で照射する“原体照射”が可能となりました。また、放射線治療に特化したCTや透視装置も配備され、治療計画に適した画像が容易に得られることにより、治療装置に備え付けの透視装置にて照射位置を確認しながら治療を行う“画像誘導放射線治療”が可能となります。更に将来的には、肺や脳の病変に対してピンポイントで照射する“定位放射線治療”や、放射線に弱い部分をさけて腫瘍への照射線量を増やすことができる“強度変調放射線治療”などの高精度放射線治療が実施できるよう徐々に準備をすすめています。

この様な充実した設備も適切な運用が行われなければ患者の皆様の診療に生かすことはできません。放射線科部一同、この点をしっかりと自覚し、気持ちを引き締めて業務にあたり、これまで以上に地域医療に貢献していきたいと考えております。よろしくお願い致します。



## Q&A

### 放射線治療中の皮膚のトラブル

放射線照射部位が、日焼けをしたように赤くなったり、カサカサしてかゆくなることがあります。その場合、皮膚を傷つけないように次のような対処をしましょう。

1. 勝手に軟膏やクリームをつけず、主治医や放射線科担当医、看護師にご相談ください。
2. こすったり、搔いたりしないようにし、爪も短く切っておきましょう。
3. 入浴はぬるめのお湯に、治療部位へのシャワーの圧は弱めにしましょう。
4. 衣服は治療部位を締め付けることのない柔らかい素材のものを選びましょう。
5. 湿布や絆創膏、カイロの使用は皮膚症状を悪化させることができますので、使用は控えましょう。

# 新病院の機能

## 1 救急医療体制・高度専門医療の充実

### ■救急医療体制

中南勢地域の救命救急医療を担う当院救命救急センターでは常時どのような救急疾患にも対応できるよう、各科診療ユニットの整備はもとより、救急外来内で手術可能な処置室も設備されています。救命救急センター内は1階救急外来と2階救命病棟に専用エレベーターがあり、構造的にも緊急入院に切れ目のない対応ができる機能となっています。さらに2月より三重県の行うドクターヘリ事業の基地病院として三重大学医学部附属病院と共に運航し、県内全域の救急医療をカバーできる診療体制となります。



### ■高度専門医療

地域がん診療連携拠点病院に指定されている当院では、専門的ながん治療を提供するため、放射線治療部門では最新の治療機器2台、核医学検査部門ではPET-CT1台を導入、また、外来化学療法室50床を整備しました。術中MRI手術システムを導入し、脳腫瘍摘出手術等の手術の根治性と安全性の向上の実現を目指します。さらに、緩和ケア病棟20床を新設し、終末期医療の充実を図ります。



## 2 災害拠点病院として

伊勢赤十字病院では災害時における初期救急医療体制の充実強化を図るため、免震構造、水害対策、自立型エネルギー供給システム、ヘリポートの設置等各種機能を整備し、やまだホールは災害時のトリアージエリア等に機能するなど、迅速かつ大規模な患者収容・対応を可能にした構造・機能となっています。

また、災害時には赤十字病院として「人の命を守り、苦痛を軽減・予防し、尊厳を守る」という使命のもとに国内救護活動を展開します。当院はこれまで一世紀を超える歴史の中で、数多くの救護活動に携わってきましたが、今後も地域災害医療センターとして、赤十字の使命を果たします。



## 3 外来の機能が1階に集約

外来部門と中央診療部門は1F西側(院内ではホスピタルストリートとよびます)に診療機能を集中化し、ホスピタルストリートの外来表示を大きく奥までみえるように配置し、患者さんがわかりやすく、移動が容易なように工夫をこらしています。



## 4 患者支援センター

患者支援センターは1階エントランスホール横のわかりやすいエリアに、計画的入院診療を支援する入退院管理室、総合相談室、がん相談窓口、地域医療連携室、訪問看護ステーション、在宅療養支援室を1か所に集め、機能を円滑化しています。また、患者図書室を設置し、積極的な情報提供を行うとともに、退院に向けて患者・家族の主体的な医療への参画を支援します。



## 5 療養環境への配慮

病室は照明や空調の位置や明るさにもこだわり、快適な療養空間の実現を目指しました。また、患者の日常生活の自立を支援できるように、トイレの配置を分散するなどの工夫をしています。また、デイコーナーは庭園の緑と穏やかな日差しに包まれ、ゆったりと過ごせる空間となっています。



## 6 グリーンホスピタルの実現

伊勢地域の植生や周辺緑地の樹種を考慮した建物と周辺環境に調和した植栽を施しました。

病院の南側道路沿いには、四季を感じられる植栽、歩行者や患者さんへの癒しとくつろぎの空間として南西角にはポケットパークを設けています。

4つある中庭は東西南北に広がる伊勢の地形・文化にちなみ、「東・海の景」「西・田園の景」「南・杜の景」「北・湊の景」とし、それぞれ特徴あるランドスケープデザイン・樹種で創っています。

薬剤部  
より

## 新システムについて

新病院になり薬剤部も生まれ変わります。一箇所に集中していた薬剤部は、入院患者さんに近い場所で業務が出来るよう、セントラルファーマシーだけでなく、各階の病棟サテライトファーマシー、手術室、化学療法室に分散します。原則として院外処方をお願いしているため、新病院ではセントラルファーマシーが2階となり、院内処方でのお薬渡し口も2階となります。入院、外来共に今まで薬袋のお名前や服用方法を手書きで行っていたため読みづらくて迷惑をお掛けしましたが、印刷してお渡しできるようになります。さらに薬袋に薬品名と薬品の形状も印刷し患者さんが服用いただく薬を分かりやすくしました。化学療法室では抗がん剤治療を受けていただく隣の部屋で薬剤師が注射の調製を行なうため、お薬の説明などにも対応できるようになります。新体制においても、薬剤師は医療スタッフの一員として薬物治療と医療安全に貢献して行きたいと思います。



栄養課  
より

## ニュークックチルシステムを導入



当院では新病院の移転と同時にニュークックチルシステム(調理後急速冷却し一定期間チルド温度帯にて保管後、再加熱して提供するシステム)を導入しています。

ニュークックチルシステムは厳密な温度と衛生管理を前提に食材、調理の安全性、品質管理を前提とした調理、保管システムです。

一定量の料理を計画的に(週5日)生産するため常にチルド保管庫には2日~3日分の料理が保管されています。災害などの非常時には災害備蓄食と合わせての提供が可能になります。厨房内にあるチルド保管庫は電源の優先供給先でもあり、日常的に温度管理システムにより常に機器、温度異常をモニタリングし管理をしています。

十境

散策路には「人のカタチ」をシンボライズした景石があります。チームの境、師弟の境、先輩後輩の境など、十の景石によって風景を創っています。



ボランティア  
募集

敷地内の植栽への水やりをしていただける  
ボランティアの方を募集しています。



詳しくは、医療社会事業部 社会係 中原まで。 電話0596-28-2171(内線7020)